

月別概況（平成26年）水産

1月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 628円

近海及び小釣物では、ヤケ入荷安定し保合、サワラ入荷安定し弱保合、トラフグの相場は堅調も売れ悪い、ワカメ入荷早く保合。青物では、スルメ入荷順調保合、ツバス人気で強保合、サゴシは軟調、金目鯛の入荷量増えだした。養殖物では、ハマチ、ブリ浜値急上昇、在池尾数が例年よりだいぶ少ない為売れ行きは堅調傾向であった。カンパチも徐々に売り相場となった。太物では、本よこ入荷多く弱保合、中でも小型サイズ3入/5.0kgサイズは引合あり、びんよこ、かつを共入荷わずか強保合、良品は堅調に売れる、ピンチョウも入荷10~15kgサイズあり堅調に値段あったが下旬には下げた。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 700円

チリ銀サケ原料の搬入が本格化するもヒネ物在庫もなく、現地で高値で成約され国内相場は強含み定塩製品は、原料の価格上昇により上方修正するも市場でなかなか受け入れられなかった。

加工水産物

1kg当たり平均単価 278円

1月は各地とも休漁で入荷ほとんどなく閑散としていた。イカナゴ漁も今年は2月になりそうだ。今年は、いつもの年にも増して前売りが悪いような気がする。

2月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 606円

近海及び小釣物では、悪天候が続き10日以上ほとんど荷物が無い日が続くが相場保合、タコは前半堅調、後半保合、サワラ入荷減少もサイズ小さく保合。青物では、中旬まで天候のせいで荷がかなり少ない日が続いたが下旬に入り通常の量が入荷できだした。品薄高からは、相場落ち着いて月末は反落した。養殖物では、ハマチ、ブリ浜値高値安定、カンパチ高値傾向売れ堅調。太物では、本よこ長崎より入荷潤沢にあるも相場堅調に動く。びんよこかつをは入荷少なくびんよこは本よこの影響を受け底値の状態。かつをは、良品は品薄高。宮崎、高知からトンボ入荷あり300~600円/kgで大きいサイズは、確りしている。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 646円

タラバガニは、ロシア側の漁業規制が本格的になり2月の昨対では大幅な供給減少となり相場は、強含みで推移しており引き続きこの状態は続くと予想される。

加工水産物

1kg当たり平均単価 315円

淡路でイカナゴ漁が始まり漁少ない為高値、2月中旬からは、香川で新子があがり小さめで良品でこれも高値から始まった。2月後半に和田島も出漁するが全くゼロであった。

3月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 675円

近海及び小釣物では、悪天候、水温低下の為入荷減少、タコは、入荷減で堅調な動きが続く。タイ、サワラは入荷減も保合、アワビ、トコブシ入荷安定し相場保合。青物ではサバ東部地方豊漁の為安値安定。イカ類は、漁落の為高値。天候不安定の為全般に高値安定まちまち3月後半高知沖ぶり、はまち豊漁。養殖物では、ハマチ、ブリ高値安定、ブリの在池が少なくなっている為浜値上げ気味傾向。カンパチ浜値急上昇売りは、平年並み。太物では、長崎からの本よこも入荷少なくなり1200~1800円/kgびんよこは宮崎主体で1入5~6kg600~800円3入小300~500円/kgかつをは入荷少なく入荷あるも6kg以上で型大きく300~700円/kg。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 679円

鰻は、シラス鰻漁も終盤になり各主産地には、おおむね池入され価格も昨年の半値程度で推移。ただ中国産地、国内ともここ数年のシラス不漁により在庫が薄く価格に値下がり反映してくるのは6月後半~秋口との見通し。

加工水産物

1kg当たり平均単価 288円

いかなごは、淡路が少々漁があったが和田島は、全然漁がなかった。ちりめんは、宮崎が少しあり値も高値安定。

4月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 719円

近海及び小釣物では、タイの入荷低水温の为例年より遅れ入荷減も後半には安定した入荷で価格保合。サワラは大量入荷も保合。青物ではサバが三重、静岡からの入荷量が多く値下がり傾向にあった。スルメイカの入荷が少なく3月は、1500円程だった物が2000円~2400円と価格が高い状況が続いている。太物では、本よこは長崎、福岡の九州主体の入荷、数量は多くなく800円~1300円びんよこ、かつをは、高知、和歌山の入荷がほとんどなく宮崎が主な入荷先だが弱保合のまままだ下げ気味の相場。かつをは小型の良物のみ高値がつく状況。養殖物ではハマチ、ブリ、カンパチ、高値安定、相場堅調、ハマチ3年物の在池が少ない事で浜値上げ気味傾向、カンパチGWに需要が見込まれる為浜値上昇。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 814円

東南アジア養殖エビが端境期で搬入数量は減少しているが、国内在庫が残っている為無頭エビは相場横ばい、加工品は高値、原料の使用分になるので相場強含み。

加工水産物

1kg当たり平均単価 253円

いかなごは、淡路が少々漁があったが、和田島は、全然なかった。ちりめんは、宮崎が少しあり値も高値安定。

5月

生鮮水産物

1kgあたり平均単価 645円

一般近海及び小釣物では、サワラは、瀬戸内の刺し網が始まり安定した入荷で弱保合。タイは瀬戸内の定置網、底引きとも安定入荷で軟調。青物ではサバ県外物の価格は安定。平アジも県内、県外ともに価格は安定していた。スルメイカは、前半地物の入荷が少なく高値であったが後半に入り県外からの入荷があり地物のスルメの価格は下がった。サゴシ、イワシ共に価格は安定、養殖物では、ハマチの3年魚の在池が少なくなり浜値が上昇し続けてそれにより下のサイズがブリの代わりに出荷され始めた。カンパチも同じで小サイズで高値安定。太物では、先月まで不漁であったかつをの入荷が数量は多くないもののほぼ毎日入荷があり1入3.0kgサイズ1300~1500円1入2.0kg1000~1200円2入3.5kg600~800円本よこは長崎中心に800~1200円/kgびんよこは入荷少なく1入3.0kg800~1000円2入3.0kg500~600円。

冷凍水産物

1kgあたり平均単価 643円

冷凍全般にオファーが少なくヨーロッパへの引き合いも強い為、相場が上昇している。日本国内も順調に消化が進んで在庫水準は、低い状態である。これからの中国の買付欲に注目し需要期に向けて価格訂正が必要。

加工水産物

1kgあたり平均単価 326円

先月末からちりめんが取れるようになった。全国に比べて品物が細いのと今年の在庫が少ない為値も高値安定であった。

6月

生鮮水産物

1kgあたり平均単価 680円

一般近海及び小釣物では、釣りのサワラが禁漁になったが瀬戸内の刺し網が安定入荷で保合。ハモは、例年より遅れ入荷少なく軟調、アワビは、由岐が始まり安定入荷保合。青物では、月後半高知や三重からの丸サバが多く入荷し価格安定。逆に真サバ少なく価格上昇。スルメイカは、石川や新潟から入荷多い。サゴシの入荷少なく先月に比べ300円程高い。養殖物では、ハマチ、ブリ前月と変動なく高値安定、カンパチ浜値下降気味、サイズが3.5kgぐらいになってきた。太物では、輸入キハダ依然搬入少なく市況も弱く安値のまま境港の巻き網本まぐる入荷あるが400~1200円びんよこは高値大きさ関係なく600円まで。かつをは、大型サイズ少なく1入2.5kg~3.0kg1300~1600円2入600~800円。

冷凍水産物

1kgあたり平均単価 613円

ロシア産ズワイガニは、ロシア、北オホーツクオピリオ種の操業も折り返し地点となり昨年同期比約2倍のペースで漁獲されており期待値を込めてジリアンを予想しているがまだ成約価格は下がっていないのが現状である。

1kgあたり平均単価 304円

先月に比べてちりめんは、少なくなつて品物が良くなり値も先月に続き高値安定。

7月

生鮮水産物

1kg 当たり平均単価 767円

近海及び小釣物では、ハモ、タコ共前年より入荷減少保合。小エビの入荷は、例年並相場も保合、サワラは、前半少なめ後半やや多く保合。青物では、三重、岩手からの丸サバの入荷が安定していたが価格は、非常に安いものとなった。ツバスの入荷も安定していたが価格が高手が出せずにセリで大幅に価格が下がる傾向であった。サゴシは、入荷、価格も安定。丸アジは、入荷少なく特に平アジは値が非常に高くなった。養殖物ではカンパチ浜値下げ傾向である。ハマチ、ブリは高値安定、愛媛県側で赤潮が発生した為浜値堅調。太物では、九州、福岡県産の本よこは、7月前半に漁獲量を取りつくし2入8k~9kgサイズ800~1300円/kg、びんよこは千葉県主体で400~900円かつをは、高知からの入荷も少し増え400~1300円/kg気仙沼のかつを650~1100円/kg。

冷凍水産物

1kg 当たり平均単価 1,017円

今年4月よりアフリカタコ原料が高騰し毎月製品が値上がりしている。昨年売れ過ぎた為国内在庫のストックが少ない為現地浜値も高値である。大型サイズは、国産原料変わらない価格になっている。

加工水産物

1kg 当たり平均単価 360円

ちりめんは、先月より漁は多く値も先月と同じで高値安定、煮干も品物が良く漁は多く値は600~800円。

8月

生鮮水産物

1kg 当たり平均単価 800円

一般近海及び小釣物では、台風の影響で入荷が少ない日が続き相場軟調、釣りのサワラは、サイズが小さいながら安定した入荷で相場保合。青物では、丸サバ、サバ共に入荷価格安定、ツバス、ハマチは日本海からの入荷が安定。平アジは、先月同様入荷少ない。盆明け頃よりサンマの入荷が本格的に始まった。去年に比べ水揚げ量が少なく価格上昇。養殖物では、カンパチ浜値下げ傾向であった。ハマチ、ブリは高値安定、盆明けからブリの5kサイズの品薄状態に拍車がかかった。太物では北海道より本よこ5~6kg入荷あるものの数量少なく2700円/kg前後でしっかりしている。月前半は、千葉(勝浦)よりびんよこ各サイズ500~800円/kg月後半は沖縄より4kg/尾800~1000円/kgかつをは、気仙沼主体800~1300円/kg。

冷凍水産物

1kg 当たり平均単価 749円

ブラックタイガー、バナメイ共に産地価格は、上昇しており今年上半期のエビ輸入量は、昨年と比べて半分に満たない物も多く各社在庫少なくフリー在庫なく相場は、かなり強含みとなっている。

加工水産物

1kg 当たり平均単価 386円

ちりめんは、盆明けから少なくなってくるが、今年は、漁が多く少し品物が落ちて安値、煮干は油物になり少なくなった。

9月

生鮮水産物

1kg 当たり平均単価 643円

一般近海及び小釣物では、タチウオ、ポーゼ、カマス共例年より入荷少なめで相場保合。八モの入荷は、前月に続き安定入荷で保合。アオリイカは入荷減少で堅調。青物では、真サバは入荷少なく高値、丸サバは三重からの入荷が多く価格安定。秋祭りの時期が近づき小あじの入荷が多くなった。サワラは入荷少なく価格上昇。ブリ、ツバスは富山、石川からの入荷が安定。サンマの入荷は安定していて価格も安定。養殖物ではハマチ、ブリ浜値高値安定、カンパチ下げ相場。太物では、本よこが北海道、青森から5~8kg物入荷少なく高値しっかりした相場。高知主体のびんよこは、3kg以上の大きなサイズは少なく引合い強く逆に小さなサイズ3kg以下は入荷量多く値崩れした状態続く。

冷凍水産物

1kg 当たり平均単価 731円

鰻は、需要季も終わり相場が下がってくる見通しでしたが養殖規制の問題や種別で輸入が停止する等相場は均衡状態。10月の春節明けの新たな相場日を待つ状態である。

加工水産物

1kg 当たり平均単価 488円

例年よりチリメンの漁が少なく値は高値、漁師も数多く漁をしようとしているが昨年より少ない。

10月

生鮮水産物

1kg 当たり平均単価 702円

一般近海及び小釣物では、先月に続きポーゼ、カマスの入荷少なめ、カマス保合、ポーゼは堅調な動き。堂浦、北灘のハマチが安定した入荷で前半堅調後半は保合。青物では、マサバの入荷全体的に少なく価格上昇。サワラ、サゴシは先月に比べると価格下落。北陸からのブリが入荷、秋祭り中のポーゼ、小アジは高値を保っていた。サンマの入荷は安定価格は下落。養殖物では、ハマチ、ブリ浜値少々下げ気味傾向、相場は保合。カンパチ下げ相場。太物では、本よこ北海道、青森、秋田産8~10kg中心1700~2000円/kgで堅調、びんよこは高知県産主体、大きいサイズ2.5kg以上のみ引合い強く2入3入の小物サイズは弱保合、かつをは、気仙沼の入荷もまちまちで高知県からも少なく相場下げた。

冷凍水産物

1kg 当たり平均単価 820円

冷凍ホタテ貝柱夏以降生産数量減、米国向け輸出引合増等の要因の為工場出荷価格が高騰している。この状況をうけ年末に向けて確実に足りなくなると考える得意先が一斉に集荷を始めている。

加工水産物

1kg 当たり平均単価 553円

ちりめんの漁は少なく値は高値安定、煮干も漁が少なく値は高値。

11月

生鮮水産物

1kgあたり平均単価 774円

近海及び小釣物では、ポーゼ・カマス、タチウオをはじめ全体の入荷量は少なく相場は保合。サワラは、安定入荷で弱保合、ヤケイカも前年より減少、青物では、サバは東北と関東からの入荷が安定、サンマの北海道からの入荷が少なくなり岩手からの入荷が始まった。片口イワシの入荷は少なく高値を維持、サゴシ、サワラは先月より200円程安い、丸アジは地物入荷安定、平アジは入荷少ない。養殖物では、カンパチ浜値相場安定、ブリは愛媛産以外は下げ相場、ハマチ下げ相場。太物では、青森県産本よこ7~9kg1800~2200円/kg高知産は1.8~2.5kg1600~2400円/kg入荷本数は少なく確りだった。びんよこも小型サイズ中心で入荷数量も少ないが500~1000円/kg保合。かつをも高知県産中心で1入800~1400/kg弱含み。

冷凍水産物

1kgあたり平均単価 783円

昨年より高等しているロシアタラバは、10月~11月も引き続き高値相場であった。またアラスカ新物タラバに関して漁獲枠は増加したものの日本の調達以外は、現在の為替水準では前年の価格より1割程高値になりそうだ。

加工水産物

1kgあたり平均単価 466円

ちりめん漁は10月に比べて少なく値は高値であった。煮干は愛媛と広島で入荷があったが油もので売りにくかった。

12月

生鮮水産物

1kgあたり平均単価 870円

近海及び小釣物では、マンガン漁が始まるが前年よりアジアカ、白サ、赤シタ等が入荷減少し堅調な相場、サワラは先月に続き入荷安定で保合。青物では、サバは千葉、三重からの入荷が安定。丸アジ、平アジは入荷量が少なかったが価格は、安値で安定。サゴシは地物、日本海からの入荷が多く価格は安定していたが年末は急に下落した。ブリ、ハマチは千葉や地物の入荷が安定していた。養殖物では、カンパチ浜は底値、ハマチ、ブリ類は保合。天然のハマチ入荷が減少し養殖の需要が増えた。太物では、よこ、めじ類は高値高騰。その影響でびんよこも高知県産3kg800~1500円でしっかり相場、かつをも需要は少ないが2.0kg~1100~1300円3kup1800円、沖縄産とんぼは、型もよく500~650円/kg輸入キハダは入荷激減で28日までしっかりした。

冷凍水産物

1kgあたり平均単価 1,173円

モロッコ、モーリタニアのタコ原料の高値により各スーパーが地物タコを販売強化しているが年末は、2kupの原料をメインにして販売した結果よく売れた。

加工水産物

1kgあたり平均単価 560円

塩数の子は、去年に比べ数量も多く値も少し安値。鮭も去年より円安の為安値。